

作成日：令和 5 年 7 月 5 日

令和 5 年度 第 1 回こども部会のご報告をいたします。

日 付	令和 5 年 6 月 22 日（木）
時 間	10：00～11：30
開催会場	香川こだま学園
参加機関等	地域生活支援センターこだま、児童発達支援センター香川こだま学園 児童発達支援センターKusu の木、直島町住民福祉課、高松市障がい福祉課 高松市総合教育センター、三木町福祉介護課、障害者生活支援センターあい 高松市障がい者基幹相談支援センター中核拠点 順不同 計 9 名

議題 1：部会長より発足から 5 年間の振り返り及び意見交換

議 事	○児発・放デイ連絡会の取り組み内容について知りたい H30 は「教育について」高松市総合教育センターから講師を招き開催。 H31 は「教育と福祉の連携」福山市基幹相談支援センターから講師を招いて開催した。 ○保育所等訪問支援の件数が少ないのでもっと活用できないか？ 実施可能な指定事業所数が少なく、三木町では Kusu の木、高松市ではこだま学園、ミライズのみ。実施していくことで教育と福祉の連携に繋がる。学童保育で対応に困っていると聞く。学童にも訪問可能なので活用してもらいたい。 ○保育所等訪問支援内容とはどのようなものなのか？ 例）学校でルームアウトが多く衝動性のある子どもさんの保護者に先生から保育所等訪問支援の利用を促してくれた。目的としては集団活動に参加してもらえるようになること。保護者が申請するので個人情報のやりとりがしやすいメリットがある。サービス事業所ではうまくやれていても学校に行くと難しいケースがある。 ・事業所連絡会のテーマにして欲しい。好事例の発表など指定事業所を増やして欲しい。 ・こだま学園では利用している難聴児を対象に保育所等訪問を実施している。 ○児童のサービス利用が増えている 相談支援専門員の受け入れ状況のひっ迫が心配。児童の場合は相談支援専門員が母の希望をプラン化する現状がある。時には福祉サービス以外の療育や社会資源も提案出来ると良い。サービスを急いで利用希望したい保護者の方が多い中、本当に子どもさんにとって必要かつ適切なサー
-----	--

	ビスを判断できる視点を相談支援専門員が持てると良い。 ・事業所の受け入れが難しいという話を聞く。人気の事業所は集中しやすい。 ・直島町では、母親同士の口コミで広がって同じ事業所の利用に繋がっている。 ○相談支援専門員のスキルアップとして障害児相談支援に特化した研修が必要ではないか？相談支援現任研修の中に子どものサービス利用に関する内容を盛り込むことができないものか？ ○香川県障害児等療育支援事業の利用について 個別相談と訪問療育と施設支援の3本柱。東讃では、白鳥園、のぞみ園が受託。高松市は香川こだま学園が実施している。市町の受給者証の有無なく受けられる療育。 ○基幹相談支援センターに児童の相談が多い。地域の子育て支援コーディネーターとの連携が増えてきている。 ○コロナの影響で保健センターで実施していた1歳半健診は地域の小児科で受けるようになった。3歳健診は健康づくり推進課が担当して実施している。Drの勧めで直接サービスに繋がる場合があり、その影響でサービス利用希望者が増加している。今年から1歳半月健診は健康づくり推進課に戻される。 三木町は「kusuの木」に委託しているので、いったん、児童に対する療育の見立てをしてもらってから必要があればサービスに繋いでもらっている。 ○発達部会と医ケア部会の連携 部会長同士で協議していく予定。
議題2：事業所連絡会について	
議 事	○医療連携加算を利用している事業所から情報をもらってはどうか。 ○放課後等デイサービス事業所の医ケア児の受け入れをテーマに入れる。 ○今年度の連絡会では「保育所等訪問支援の利用促進」「医ケア児の受け入れに」をテーマにする方向で検討に入る。
議題3：直島町の療育強化について	
議 事	○直島幼児学園の機能強化につながるような取り組みが出来ると良い。子ども部会で直島に出向いていくことも検討している。
議題4：アンケートの取り扱いについて	
議 事	○協力いただいた事業所や保護者がいるので、結果の報告はした方が良い。連絡会で共有しても良い。

	⇒取り扱いについて高松市で協議してもらう。
議題 5：教育との連携について	
議 事	○小中学校への啓発は進んでいるが、高等学校の現場がどこまで卒業後に受けられる福祉サービスの情報を知っているのか？高等学校で発達障害などが原因で不登校やひきこもりになっている生徒の進路指導に福祉の情報が役立つと思う。高校は県の教育委員会の管轄なので県の自立支援協議会との連携が必要になると思う。
議題 6：次回について	
	9 月頃開催予定